

■ロシア：ソチ五輪開催時のピーク対応のガスタービン発電所が運開

冬季五輪が開催されるソチの北方、クラスノダール州ツアプセ地区で2013年11月5日、ジュブガ火力発電所（18万kW：9万kW×2基）が運開した。発電所は、2基のガスタービン（GT）で構成され、ソチ五輪開催時のピーク対応設備として、政府決定（2007年12月）に基づき国有発電会社 Intel RAO EES（インテル社）によって建設された。GTはいずれも米国GE製で、工期は2年半、総工費は170億ルーブル（約510億円）とされている。五輪後は、黒海沿岸の住宅への電力供給用設備として利用される。なお、五輪用の新設電源には2013年1月に運開したアドレル火力発電所（36万kW）がある。